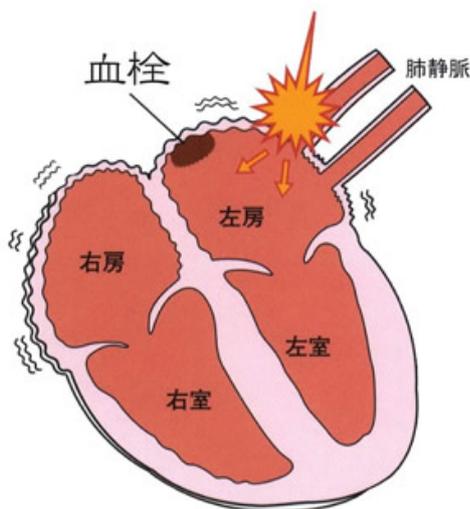


今回は心房細動という不整脈について詳しく説明しましょう。この不整脈は中年から高齢者に最も多い不整脈で、ペースメーカーを植え込んでいる方にも見られる不整脈です。

## 心房細動とは……

心臓は全身から戻ってくる血液をためる袋のような心房と、全身に血液を送り出すポンプの役割のある心室からできています。通常は心房が収縮して血液を心室に送り込んでから心室が動き、その頻度は安静時には1分間に50-70回程度です。ところが心房だけが1分間に300回以上収縮し、それに伴い心室が80-150回程度で乱れて早くなるのが心房細動です。



## 症状は……

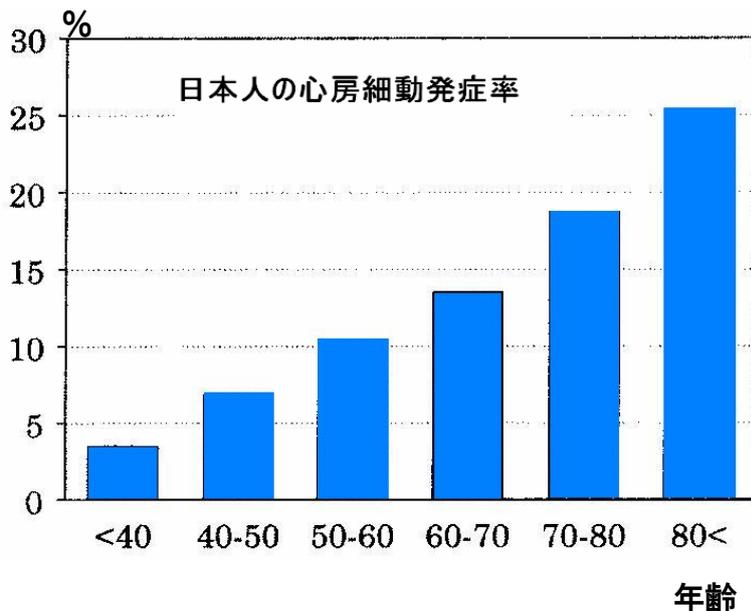
急に心房細動になったときには脈の乱れた感じやのどが詰まるような動悸感が出現し、脈を取ってみると乱れていることがわかります。

突然心房細動になり数時間から数日で治まってしまうのを発作性心房細動といい、心房細動が何ヶ月も何年も続いて正常に戻らなくなったものを持続性心房細動といいます。

持続性の場合には動悸感になれたせいかもしれない最初のうちにあった症状はほとんどなくなり、動いたときや走ったときのみ感じる人が多いようです。ペースメーカーを植え込んでいる方では脈の乱れない方もいらっしゃいます。

## 誰がなるの？

心房細動は正常な人にも起こり、40歳代からふえ、日本人では70歳以上では10人に一人、80歳以上では5人に一人に見られるといわれています。ペースメーカーを植え込みしている方では洞機能不全症候群で植えこみした人に多く見られます。



## 原因は……

もちろん加齢による心房筋の変性で起こることが多いのですが、そのほかにストレスや不規則な生活習慣、深酒、過労、不眠なども誘因です。また弁膜症や心筋症など心臓に病気がある人の場合も出現しやすいといわれています。

## 心房細動は何が悪い

心房細動はすぐに死にいたるような不整脈ではありませんが、48—72時間以上続くことで心房内に血の塊(血栓)ができやすくなります。その塊が血管を通過して脳の血管に詰まると脳梗塞をおこす危険があります。長嶋茂雄さんが脳梗塞になったのも、心房細動があったからだと報告されています。特に高血圧や糖尿病を合併している方や脳梗塞を起こしたことがある方、心臓の収縮力が弱い方ではリスクが高いといわれています。また、もともと心臓の動きが弱い人や高齢の方では心不全を合併する傾向があります。

## 心房細動の治療は？

発作性心房細動に対しては飲み薬を使って発作を予防したり、発作の持続を短くすることができます。しかし年には勝てませんから、ストレスのないように生活していても発作が起こるようになるかもしれません。心房細動が続くようになったら、脳梗塞を予防する薬を使います。血液をさらさらにして心房の中に血栓ができにくくする薬です。薬の種類によっては出血しやすくなったりすることがあるので、主治医とよく相談しましょう。

